

事業概略書

家計情報のビジュアル化と相談者自身のための
簡便な家計管理アプリ等の調査・研究事業
(報告書 A 4 版 48 頁)

事業目的

家計改善支援の実際の支援現場では、家計の状況については、支援員が聞き取りをしながら手書きで家計表を作成し、相談者に見てもらいながら面談を行っている。実施自治体からは、面談の途上や終了後に渡すデータ入力後の家計表等にグラフやポイントにコメントの挿入などができる機能があればより分かりやすくなるという要望が出されている。出力帳票類がビジュアル化できれば、相談者に一目瞭然で示すことができ、家計改善支援員にとってもわかりやすいものになると考えられる。家計情報のどのようなビジュアル化ができるかを調査研究の一つ目の目的とする。

また、近年キャッシュレスが急速に進み、スマホの普及率も高く、日常的にスマホで買い物をする生活が若者を中心に進んでいる。その様な社会状況の中で、対面での家計改善支援で一定の気づきがあった相談者が支援を終えて自身で家計管理をしていく一つの方法として、家計簿アプリの活用の可能性を調査する必要があると考える。家計改善支援の効果を高め、家計簿アプリが相談者自身の家計管理のメニューになり得るのかの調査をすることを二つ目の目的とする。

事業概要

家計改善支援で相談者とともに作成し、家計改善に向けての相談をするために活用している相談時家計表、家計計画表、キャッシュフロー表について、相談者にとって分かりやすくするための家計情報等の視覚化（ビジュアル化）及び、相談者自身が簡単に家計管理をしていくための支援メニューの一つとして家計簿アプリの可能性を調査した。

(1) 家計改善支援の出力帳票のビジュアル化の開発

家計改善支援の出力帳票について、ビジュアル化の対象となる帳票と付加する機能の範囲について検討し、「家計表に簡便に吹き出しを挿入する機能」「家計表・キャッシュフロー表をグラフ化する機能」「ライフイベント表とキャッシュフロー表との連動機能」について開発することを確認した。検討した具体的な開発機能のイメージをまとめ、開発に入った。部会や打合せを繰り返し、開発をすすめている付加機能について、家計改善支援支援員でもある委員が意見交換し、付加機能の詳細について詰めて、機能が付加された家計表を完成させた。加えて、高齢者向けに使用する家計表・支払い計画表についても、より見やすく、分かりやすい出力帳票にするためのビジュアル化の機能を付加した。上記の機能付加について、家計改善支援現場で試用実験を行い、家計相談員が使うための手引書を作成した。

(2) 困窮者の出口支援のための簡便な家計管理アプリの調査

家計改善支援利用者の出口支援のメニューの一つとしての家計簿アプリの可能性を、マネーフォワードの家計簿アプリ「Money Forward ME」で調査をすすめた。相談者に試してもらう前に、家計相談員が家計簿アプリについて学び、試用してみたところ、実際に家計管理まで進むことができたのは18人中5人であった。途中で試用を断念した家計相談員の結果も含めて、家計簿アプリで家計管理を始めるまでには多くの課題があることが明らかになった。家計相談員の試用結果では、相談者が家計簿アプリを利用するためには、家計簿アプリが使えるためのスマートフォンの操作ができるかの初歩的で技術的な課題、経済的に困窮している相談者が銀行口座やクレジット等の機能がついたカードを所有し、それをアプリと連携できるのかという次の段階の課題等、多くの課題があることが分かった。一方で、家計相談員の試用結果だけで相談者への家計簿アプリの可能性は判断できないと考え、相談者の現状について二つの調査を行った。

無料定額宿泊施設に入居している58人の調査では、スマートフォンとクレジットカードの両方を所有している人がおらず、家計簿アプリ試用は難しいという結果であった。家計改善支援事業所の相談者のうちスマートフォンを所有して、アンケートに回答した16人の調査では、家計簿アプリに興味を持った2人の相談者に家計相談員が家計簿アプリを紹介したが試用には至らなかった。家計改善支援の対象となった相談者に出口支援として家計簿アプリを提案する前に、家計簿アプリの利便性を損なわずに安心して利用してもらうためにいくつかの課題があると想定されていたが、そのことが本調査で検証され具体的に見えてきたと言える。

調査研究の過程

本事業では、上述の目的を達するため、「家計改善支援の出力帳票のビジュアル化の開発」「困窮者の出口支援のための簡便な家計管理アプリの調査」の2つの調査研究について、それぞれ部会を設置し、検討を重ねながら進めていった。

(1) 家計改善支援の出力帳票のビジュアル化の開発

- ① 7月20日の委員打合せにおいて、家計表への吹き出し、家計表の支出内訳の円グラフ、ライフイベント表とキャッシュフロー表の連動について具体的な事例を基に意見交換した。
- ② 7月23日に部会長と委員打合せにおいて、現行の家計表のエクセルデータに付加可能なビジュアル化の内容と開発を委託する(株)AISICとの相談を行った。
- ③ 8月9日の委員打合せにおいて、相談者にとって何が必要かを基本にして、家計相談員が相談現場で本当に求めていることを開発をするため、具体的なこれまでの帳票などを参考にしながら意見交換した。
- ④ 8月23日の委員打合せにおいて、ビジュアル化する帳票と付加する機能について相談し、委員会に提案することを確認した。
- ⑤ 10月16日の第一回部会では、開発するビジュアル化の機能について、細かい条件設定などを検討して決定した。
- ⑥ 12月12日の第二回部会では、様々な家計改善支援事業所の状況を考慮してモノクロ印刷で示すことができるように基本設定することなど、ビジュアル化の機能についての細かな確認を行った。
- ⑦ 2月11日の委員打合せでは、網掛けの模様や吹き出しとメモ欄のデザイン、グラフの詳細設定、元号の表記について検討し、開発に反映させることにした。
- ⑧ 3月7日の合同委員会にて、複数の自治体に参加いただき、ビジュアル化の内容を提案し、相談現場にとってニーズの高い、分かりやすい開発であるとの評価を得た。
- ⑨ 3月28日、様々な微調整を行い完成した。

(2) 困窮者の出口支援のための簡便な家計管理アプリの調査

- ① 家計簿アプリ調査の目的と進め方について検討し、アプリについて学び、家計相談員が試用してみて進めることにした。
- ② 家計簿アプリについて、ユーザー600万人の最大のシェアを有するマネーフォワードの金箱遼氏(アプリ部会委員)を講師に学習会を開催した。
- ③ マネーフォワードのアプリの試用を18人の家計相談員等で行い、その結果をアンケートや聞き取りで調査した。
- ④ 相談者が家計簿アプリを利用する可能性があるかどうかについて、期間を定めて家計改善支援事業所で面談を行った相談者にアンケート調査を行った。
- ⑤ 家計相談支援事業を利用している相談者以外にも、家計簿アプリを利用する可能性があるかどうかについての調査を行った。

事業結果

(1) 家計改善支援の出力帳票のビジュアル化の開発

開発した家計改善支援の帳票はグリーンコープのホームページ (<https://www.greencoop.or.jp/>) にアップする。

- ①家計表に吹き出し、メモ、矢印を簡便に入れることができる機能
- ②相談時家計表の収入と支出の差（内訳）が並べて比較できる棒グラフの自動作成機能
- ③相談時家計表の支出についての費目内訳の円グラフの自動作成機能
- ④相談時家計表の支出内訳と家計計画表の支出内訳が比較できる棒グラフの自動作成機能
- ⑤家計計画表を5つ横に並べて作成でき、選んだ計画表でグラフやキャッシュフロー表が作成できる機能
- ⑥相談時家計表の金額を自動的に家計計画表に転記できる機能
- ⑦ライフイベント表の入力フォーム
- ⑧ライフイベント表の内容を短縮・選択して、キャッシュフロー表に自動的に転記する機能
- ⑨キャッシュフロー表の当月収支の棒グラフと、累計の折れ線グラフの自動作成機能
- ⑩相談者名を家計表・グラフの見出しに自動的に転記する機能

(2) 困窮者の出口支援のための簡便な家計管理アプリの調査

家計管理の方法の一つのメニューとして相談者にアプリを提案していくためには、後述のような課題があることが分かった。

- ①家計簿アプリで家計管理ができる可能性のある相談者像としては、「スマートフォンの所有」「アプリを含めてスマートフォンを使いこなしていること」が必要である。
- ②実際に家計簿アプリを試してみようと相談者が行動するためには、動機づけや支援体制が必要になるのではないかと考える。
- ③マネーフォワードの既存の家計簿アプリの特長としてネットバンクや各種カード連携による自動家計簿が利便性の大きな要素であったが経済的に困窮している相談者はカードが所有できない人が多く前提条件を満たせない。加えて、個人情報への情報漏洩への懸念も大きい。
- ④家計管理に課題を抱えた相談者にとって、キャッシュレス決済はお金の出し入れが実感しにくく、クレジットカードを安易に利用することは家計収支が立ち行かなくなる危険を孕んでいる。
- ⑤現在様々な家計簿アプリが登場しているが、それぞれの相談者に合わせた最適な家計簿アプリの開発や既存のアプリの調査について検討していく必要があるのではないかと考える。
- ⑥キャッシュレス化が進行する中で、困窮者がクレジットカードを使わなくても同等のメリットが得られるようなサービスを図る必要性があるのではないかと考える。

事業実施機関

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1-5-1博多大博多通ビルディング7階

グリーンコープ生活協同組合連合会

T E L 092-481-6873 f a x 092-481-7886